

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600419		
法人名	医療法人社団康誠会		
事業所名	グループホーム ケア・ガーデンおおの		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町南方二度桜191		
自己評価作成日	令和7年1月7日	評価結果市町村受理日	令和7年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172600419-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和7年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者皆様が自分の居場所として安心してゆとり(自信)ある気持ちで生活して頂ける様にとの思いで職員間で連携し馴染みの関わりに努めています。コロナは5類になりましたがインフルエンザ等他感染症の予防の為、現在も外出活動やホーム内の面会を自粛しておりご利用者様は楽しみが不足している状況かと感じています。入居期間の長いご利用者様が多くなりほとんどの方が車いすの状況となっています。皆様が少しでも過ごしやすい環境であるようにホーム内はバリアフリーになっており、今年には浴室の改修を行い車いすの方も入浴できるように椅子浴を導入しました。法人事業所にクリニック・老健など併設しており多職種間で連携し利用者様の支援をさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各部屋も共同スペースも窓が大きく明るく広い。事業所が2階にあるため見晴らしもよく、天気の良い日は遠く御岳山まで見える。眼下には、地域で見慣れた二度桜や柿畑が見える。職員は、利用者が安心してのんびりと家庭的な雰囲気でも過ごせるよう支援している。一人ひとりのニーズに対応、身体機能の維持に配慮し、常に利用者の様子を見ながら声掛けをしている。コロナ禍より地域との交流は少なくなっているが、法人内に6事業所があり、通所や老人保健施設などと交流している。家族と利用者との繋がりについても家族の負担にならない程度の役割を担得よう大切に見守られている。医療法人が母体のため終末期も安心して迎えることができ、利用者、家族も安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の利用者様の考えや生活行動を職員間で情報共有し「利用者様が安心して生活できる馴染みの環境」となる様、個別の対応を心がけています	リビングに理念を掲示している。職員間で情報を共有し、介護心得、理念に基づき、利用者のペースに合わせ、第2の家として安心して生活してもらえようケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になったものの法人施設全体が外出やお祭りなどの催しを控えている状況。法人として施設周辺地域の清掃活動を定期的に行っています	地域の人から花をもらうこともある。現在は玄関先で会話をしている。毎月1回自治会長に報告し施設周辺の清掃活動を行っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2020年のコロナ以降ホーム内の会議は控えている状況。年3回合同運営推進会議として地域包括職員と町内のグループホーム職員で意見交換を行っています	運営推進会議は、日常生活圏域内の事業所合同で年3回とホーム単独で年3回行っている。事業所の利用状況、活動報告、事故やヒヤリハットなど民生委員、自治会長、地域住民、利用者家族等に、活動内容を報告し意見交換をしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、揖斐広域連合職員の方それぞれに日頃から連絡しやすい関係が出来ている。研修開催や行政の連絡事項について等の伝達があり施設側からも空室状況や事故報告、介護保険の更新手続等定期的に報告している。また広域から定期的に利用者に話を聞く機会がある	年4回揖斐広域連合より訪問、「ぬくもり相談」があり、利用者とのコミュニケーションを取っている。また、ケア会議の時は情報交換をし、市町村より研修会の案内が届くと参加している。日頃から関係性は良い。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で定期的に身体拘束の内容理解をしている。また、移動してみえる利用者様に対して「どこ行くの?」「待ってて」等の声かけも拘束になる事を理解し日頃の関わりから職員間で気を付けています	年2回研修を行っている。勉強会はホーム内と施設全体で行っており、参加できない人は資料で確認している。転倒リスクの高い人はベッドを低くし床にマットを敷いている。気持ちの不安定な方は特に注意している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に勉強会を行い虐待の種類や内容理解を進めています。居室ドアを開けたままでの対応など気を付けています	虐待の研修は年間行事に組み込み行っている。虐待について職員間で話し合い、虐待のニュースがあれば情報を共有し、尊厳を傷つけない介護を行っている。日々ケアする中で気づきがあれば職員同士で声をかけ注意している。	

グループホーム ケア・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに成年後見制度を利用したご利用者の経験はなく法人全体で勉強会をしていますが、支援制度を必要時に対応できるよう法人事業所の職員や地域包括支援センター職員と相談を通し連携し利用者様に活用できるようにします		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	環境の変化が利用者様とご家族に不安がある事を認識し少しでもホームの様子が分かり安心されるよう説明を行います。一度に大量の内容を説明を受けるのは大変だと思うので柔軟な対応を心がけています		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告を行うと共に不明な点がないかお声かけし、ご家族が安心して頂けるよう努めていますが、ホームへの直通電話がない事に不便をおかけしている。コロナ前に比べるとご家族と関わる機会は減少している為、ご家族の思いを聞く機会を増やしたいと考えています	面会時に利用者の様子を伝え、要望や意見等を聞いている。パットの費用が高いと苦情があり、物価が高くなったことや本人の体調にもよることを説明した。面会は予約してもらい、利用者の体調に配慮し、他の家族と重ならないように調整している。尋ねられたことは説明し納得してもらっている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の毎月の会議、各種委員会が定期的であり、それぞれ事前に確認した職員の意見を会議や委員会に持ち寄っている。ホーム内では日々業務の中で意見交換を行い柔軟に改善しています	各種委員会で職員の意見を取りまとめ会議で話し合い対応している。利用者の重度化により一般浴が難しくなっているとの意見から機械浴の導入が決まった。また、利用者の移動時の安全確保のため不要物の撤去、位置の変更など整理整頓を行った。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者はクリニックの院長であり体調不良時は診察を受けている。健康診断と共に年1回ストレスチェックがある。毎朝の朝礼で代表者の挨拶がある。年2回考課書類と面談があり半期ずつ頑張ったことなど振り返る機会がある	朝礼時に代表者の挨拶があり職員に話を聞いている。職員の負担を軽減するため、お掃除ロボットや掃除専門スタッフを導入している。気になる時は管理者より声掛けしている。年2回管理者との面談があり、家庭の事情を考慮し、無理せず仕事と家庭が両立できるよう配慮している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年年末に研修受講や資格取得の希望を確認し年間計画を立てている。計画以外にも適宜研修のお知らせがあり法人全体で取りまとめ受講しやすい環境がある	法人から資格取得を勧められ、施設全体で年1回は研修を受ける目標が掲げられている。研修費用は事業所が負担し、出勤扱い、手当でもあるなど研修を受けやすくなっている。研修後は記録を提出し勉強会で発表したり、回覧するなど職員間で共有している。	

グループホーム ケア・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町内6か所グループホームがあり合同で運営推進会議を行っています。併設施設に老健、特養、デイケア、クリニックがあり活動や委員会を通して関わる機会がありそれぞれの事業所の特色を実感しながらグループホームでの仕事にも活用することが出来ています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれに人生背景が違う事を認識し、生き方や考え方を尊重し、プライドや自信を持ち続けて頂ける様にさりげなく関わることを大切にします		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や行動の仕方、他者との関わり方を通して、その状況を職員間で情報共有して、個々の利用者様がどのような思い、考え方をしているのかを話し合いを通して整理し意向に沿える対応が出来る様に気を付けています	日常生活の中で声掛けをしたり、答えやすいよう選択肢を用意して視線や表情等により利用者の思いをくみ取り対応している。自宅に帰りたい人は家族に連絡し外出を依頼することもある。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の生活状況を家族・職員間・栄養士・理学療法士で情報共有して計画を作成します。生活状況をご家族にお伝えしご家族の意向を確認し見直しを行います	介護計画は事業所での様子を家族に伝え意向を確認し、3カ月毎に見直し作成している。モニタリングは面会時、体調変化の時、家族に連絡し行っている。訪問診療時に家族に来てもらうこともある。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録・健康状態など記録に残し職員がそれらの記録を確認し、それらの記録を基に日々の業務の中で情報交換を行います	一覧にした健康チェック表を見やすい場所に置き予定、心身の状態の変化など必要事項や日々の気付いたことを書き込み職員間で情報共有している。利用者の気になる発語、機嫌が悪い事など、口頭でも伝えている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族のその時々状況を把握し意向を確認し、利用者様の人生を考え柔軟に対応します	家族が利用者に関わりが持てるよう洗濯を家族にお願いしている。利用者が希望すれば、家族に伝え買い物やお墓参り等を家族と出かけている。洗濯や物品の購入、他科受診の送迎など家族の都合が悪い時は、事業所で行っている。	

グループホーム ケア・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症流行時期は外出制限があり、ホーム内の生活が主となっている現状		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は自由であり利用者様とご家族の意向を大切にしています。併設施設にクリニックがあり緊急時は診察を受ける場合もある為、ご家族に事前に連絡をします	利用者、家族の希望により併設のクリニックにほとんどが変更している。他科や専門医を受診時は、状況等記載した書面を家族に渡している。診察結果は家族より報告があり、職員間で共有している。希望すれば法人の理学療法士のリハビリを受けることができる。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	町内に総合病院があり入院した際も病院から早い段階で情報共有できる体制が出来ている。入院による身体的・精神的ダメージが大きくなるように早期退院に向けてご家族と情報交換を行い準備をします	長期入院による利用者の身体的、精神的な衰えの拡大を防ぐため早期から病院との連携に努めている。家族に了解を得て事業所で受け入れ可能かどうか今後について相談をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に際しての方針を入居利用時に文書で説明しお渡しするとともにご利用者様の持病や入居後の健康状態についてもご家族と情報共有をし経過とともに話し合い終末期への支援を行います	重度化や終末期について、入居時に説明している。終末期は、家族と一緒に医師から説明を受け、再度意向を確認している。苦痛の緩和を重点に体調変化に注意、対応している。看取りの勉強会を行い職員に対するケアにも注意しチームで取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の年間計画に急変時の対応を入れて、いざという時に実践できるようにしています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人事業所全体で災害時に連携していく為に、年2回の防災訓練の実施と風水害時対応の勉強会を定期的に行っています	防災訓練は、年2回行っている。消防訓練は、消防署の立会いの下、夜間想定も含め施設全体で行っている。地域には、運営推進会議で緊急時の連絡網を作り協力を依頼しているが、訓練の予定等連絡をしていない。	車椅子使用の利用者が多く、職員だけの誘導は難しく限界がある。避難訓練の実施日を伝え、地域の方に訓練を見てもらうなど日頃から更に地域との協力体制を築かれることを期待したい。

グループホーム ケア・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり気にしている内容は違う事を理解すると共に他の利用者や周囲に人がいる事を認識しコミュニケーションをとります。職員間での会話も含め言葉使いに気を付けます	管理者は利用者一人ひとりの思いや言葉の受け止め方の違いを話している。面会の少ない利用者には、それを話題にしないなど利用者のことも考えながらコミュニケーションをとるよう伝えている。利用者同士会話しやすいように間に入り取り持つ援助をしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動参加の選択、飲み物の選択、入浴時間(午前・午後)や食事時間(30分程ずらすなど)を声かけし意向に沿うように関わります		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前日の様子・睡眠状況・その日の体調を声かけや食事を通して変化など把握し、状況に合った声かけ、意向の表出しやすい環境作りをします		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューや行事食の実施、おやつ作りなど食事を楽しむ機会を作ります。食事席の配慮、ご家族に嗜好品を持ってきて頂く、活動状況に応じて食事時間の調整など柔軟に対応します	リクエストメニューを栄養士に伝えて作ってもらい、利用者の楽しみとなっている。利用者の希望を聞きおやつに蒸しパン・どら焼きと一緒に作り楽しんでいる。誕生日にはスポンジケーキに、フルーツを挟み飾り付けをしている。炊飯器を使った蒸し芋も好評であった。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の減少や摂取時間が長くなるなど状態変化を職員間で共有し利用者皆様が食事を楽しむことのできる様に栄養士に状況を伝え形態の変更や嗜好調査を行います		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや乾燥は肺炎や感染症の危険性が高くなることを職員皆が認識し、小まめにうがいの声かけをします。毎月歯科衛生士が一人一人口腔状況を確認し助言を共有します	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯を外し洗浄やうがいのできない人はスポンジブラシで介助したり、自分で磨ける人には歯ブラシを渡したりしている。歯科衛生士が月に1度口腔内の状況を確認、指導している。治療が必要な場合は、家族に連絡し対応している。	

グループホーム ケア・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様一人一人の排泄間隔を把握し声かけをしています。ご家族に利用者様の意向・体調状況を伝えたくてご家族の意向を確認しパットの種類を相談します。利用者様の排せつ面を介入される気持ちを理解しプライバシーに配慮した声かけ対応を行います		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴好きの方、億劫に思われる方もみえる為、声かけの工夫や入浴前の環境の準備から整え(冬:脱衣室を暖かくしておくなど)気持ちよく入って頂ける様に関わります。気の進まないときは無理に入浴せず日にちを変えたり清拭で対応します		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方が夜間の安眠につながる事を認識し、日中気持ちよく過ごして頂ける様に関わります。夜間も安心して頂ける様に寝具・照明・空調・靴下・軟膏・水分等、個々に合わせて対応します		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に内容表をカルテにファイルし職員皆が確認できるようにしています。拒否のある時は無理に勧めず内服時間を調整したり、錠剤から散剤に変更し飲み込みやすくしたり医師・薬剤師に相談し服薬支援をしています	服薬については準備から服薬時、服薬後までダブルチェックしている。薬が変更になった際は、利用者の状態に変化がないか注意している。利用者が拒否する場合は無理強いせず様子を見ている。日々の状態を医師と薬剤師に相談しながら支援している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれに楽しみごとや興味のある事があり職員はそのことを把握し楽しさを感じて頂ける様に関わります(新聞・テレビ・歌・政治・コーヒー・地域の話など)	利用者の多くが長期入居により高齢化が進み、出来ないことが増えてきた。短時間の体操、音楽を聴いたり、パズルをしたりおしゃべりするなど、一人ひとりが楽しめるよう支援している。体調の良い時は食器拭き、タオルたたみ等を依頼している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	春は職員と二度桜を見に散歩しました。秋はホームから見える公園に散歩し気分転換が出来る様にしています。感染予防に気を付けながら利用者様の希望に沿ってご家族と自宅やお墓参りへの外出対応をします	春に桜を見に行けるよう計画を立てている。自宅を見たい家族送迎ができる利用者は外出している。感染症に注意し外出する頻度が少ないため今後は、外出の機会を増やしていきたいと思っている。	事業所の周辺の散歩でも戸外に出ることで気分転換にもなる。ボランティアや家族に協力を得て外出するなど利用者が気持ちよく散歩できることを期待したい。

グループホーム ケア・ガーデンおおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金の所持を対応しますがご家族も含め相談し少額の所持にして頂いています		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お身体の状況によって徐々に書く事や電話でのお話が難しくなりがちです。職員の作成するお便りに一言メッセージを添えて頂いたり名前だけでも書くことで気持ちの和む機会を作ります		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理中もシンクカウンター越しにリビングを見渡せるためリビング全部でコミュニケーションのとりやすい空間になっています。食事やお茶の提供もしやすいです。リビングには大きなテーブルがありそれぞれに関心のある活動(新聞を見たり、作業活動をするなど)をして過ごせるようにしています	リビングは、大きな窓があり明るく広く伸び伸びできる空間である。大きな机があり、外の景色を楽しみながらパズルなど趣味活動ができる。感染症に注意し、空調設備が整い温度、湿度、換気を行い快適に過ごしている。また、車椅子利用の利用者の移動もしやすくなっている。壁には、ちぎり絵等の季節の作品が飾られている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂リビングには大きな窓があり2階で見晴らしがとて良いです。東向きの窓なので眩しすぎる時はカーテンで調整します。それぞれにご自分の席がありますが時間帯によって柔軟に席の調整を行いコミュニケーションを楽しんだりゆっくり過ごして頂ける様に関わります		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・テレビ・椅子の配置、寝具やベッド柵の種類など個々に合わせ過ごしやすい環境を作ります		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア全体がバリアフリーになっており利用者の皆様が自身で移動しやすい環境になっています。テーブルの配置についても車いすの移動がしやすい様に配慮します。生活行動の変化・身体状況の変化に応じて環境整備を行います		